

総務文教委員会記録

令和元年8月7日(水)
10時00分～11時50分
全員協議会室

- (委員) 野藤委員長、小川副委員長
沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員
(議長・委員外議員) 三浦議員、村武議員、川上議員、柳楽議員、串崎議員、上野議員
西村議員、牛尾議員、
(総務文教委員会 所管管理職)
〔総務部〕 砂川総務部長、山根総務課長、西川人事課長、草刈財政課長
〔地域政策部〕 岡田地域政策部長
〔金城支所〕 吉永支所長
〔旭支所〕 塚田支所長
〔弥栄支所〕 岩田支所長
〔三隅支所〕 田城支所長
〔教育委員会〕 石本教育長、河上教育部長、市原学校教育課長、村木生涯学習課長
外浦文化振興課長
〔消防本部〕 中村消防長、本田警防課長
(事務局) 篠原書記 (報道) 山陰中央新報社、中国新聞

議題

1 執行部報告事項

- (1) 会計年度任用職員制度について
- (2) 平成30年度健全化判断比率・資金不足比率(速報値)について
- (3) 2019年度夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会の実施について
- (4) (仮称)浜田歴史資料館検討会の検討状況について
- (5) 第71回島根県消防大会及び第63回島根県消防操法大会について
- (6) その他

(配布物)

○令和元年度運動会及び学習発表会等日程

2 その他

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 10 時 00 分)

野藤委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席議員は8名で定足数に達しているため、早速議題に入る。

1 執行部報告事項

(1) 会計年度任用職員制度について

野藤委員長

人事課長。

人事課長

(以下、資料 (1) をもとに説明)

野藤委員長

ただいま説明があったように、9月議会に上程されるので質疑があれば9月議会でお願ひする。

(2) 平成30年度健全化判断比率・資金不足比率(速報値)について

野藤委員長

財政課長。

財政課長

(以下、資料 (2) をもとに説明)

野藤委員長

説明が終わった。委員から質疑があるか。佐々木委員。

佐々木委員

今後、実質公債費比率と将来負担比率も、予想公債費率の最高が12.8%とのことなので、まだ心配ないという説明の裏では、今後出てくる学校建設や計画に入っていないような負担も出てくると思うので、あまり悠長なこともしていただけないという説明だったと思う。かといってあまり締め付けると色んなサービスが滞ってしまうので、どこまで負担が増えるのは大丈夫なのか、ある程度見通しておられると思うが、その辺はいかがか。

財政課長

どこまでというのはなかなか難しい。中期財政計画で毎年度ローリングする中で投資的経費等の規模をお示しすることになると思う。ただ、昨年度の中期財政計画でも記述してあるように、健全化判断比率の指標の部分で近々の所で早期健全化といった問題に陥ることはないと思うが、問題は基金の減少なので。実質単年度収支のグラフがあったが、あれの赤字部分がいかに抑えられて黒字収支が少なくとも均衡するような部分で、基金がある程度の余裕を持って財政運営ができるような状況、30年度の中期財政計画では行財政改革健全化の方策を実行すれば、現時点では基金はもつということを示している。ただ、先ほどおっしゃったよ

うに学校建設や色んな部分があるので、昨年度計画に織り込んでない部分、色んな事業の上振れ部分、国の制度改正等による一般財源確保の問題によって、計画の2、3年先はある程度見通せても5年、10年となるとなかなか見通しは難しいのが現実だ。従って毎年度ローリングをかける中で、より直近の数字を用いて財政状況の持続性が担保できるかどうかは示して、ご理解いただける説明ができるよう努めたい。

佐々木委員

以前の説明でも、県内のうち浜田市は基金が多いということで。いずれにせよ中期財政計画の中に学校建設が盛り込まれて、大枠が見えてくれば将来のことが多少見えてくるような気もした。いずれにせよ一番怖いのは国の制度改正。その辺もしっかり状況把握しながらになると思う。なるべく不要なものは作らない、要らない負担はなくすことが基本になって、事業の見直し等が関わってくると思う。聞いていてまだ全然、心配なしという雰囲気ではない気がしたが。

財政課長

財政課なので歳入は固めに、歳出は厳しめに見ている。全く心配ないという認識はない。国の改正に伴う財政措置については想定外ということがあるので、このようなところで年間何億という一般財源が必要になることが急に決まると、当然財政運営上で大きな支障が出てくる。国の動向を注視しながら持続可能性を担保した財政運営・財政計画と進めていくことが重要だろうと考えている。

野藤委員長

その他。道下委員。

道下委員

実質公債費比率、将来負担比率がそれぞれ少なくなっていて、今度はこれが悪化していくのだろう。私としてはこれをあまりあてにしてない。先般総務文教委員会で八女、雲仙等へ行った際、将来負担比率が全くゼロ。丹波、真庭もすごく低い。この辺が気になるのだが。

財政課長

数字の判断はなかなか難しい。指標が少なければ良いのか、という問題もあろうかと思う。つまり現状のサービス、いわゆる投資的経費による負担をしたサービスの受益部分、将来負担する部分、そのバランスをいかにとっていくのか、ずっと我慢して将来に負担を残して、現状世代へのサービスが著しく低下する、何も

事業をしなければ当然のように数字は下がっていく。それが住民にとって良い事なのかどうかは、また一方での判断のところがある。従って一定程度の住民受益サービスを確保しながら、尚且つ財政運営が破たんしないように持続可能性を担保しながらやっていく、そういうバランスが重要。国の早期健全化基準、財政再生基準の部分は、それ以上になると問題ということなので、それを越えない範囲内において住民サービスの総量を認識しながら進めていく、財政運営を図ることが重要になってくるのだろうと思う。

道下委員

言っていることは良く分かるのだけど、実際的には将来負担比率も実質公債費比率も低いに越したことはないし、これを発表して市民も把握しているのだから、他市と比べて浜田市は悪いではないかと。投資をして皆さんが浜田は財政投資で良い事をしていて我々は幸せだという実感があるのかと言えない気がする。

財政課長

お答えするのが難しいが、住民の皆がそういう投資をやることによって有効な投資と受け止められるような投資事業、ハコモノで言えばそういう所、サービスであればより住民幸福度が上がるような施策に努めることが肝要だろうと考える。

道下委員

ふるさと寄附が億単位で入り、財政面ですごく効果的。財政課としてはこれをどうテコ入れするか。浜田市の戦略、考え方に変化はあるか。

総務部長

基本的には産業経済部が所管しているが、使途は財政サイドがやっているなのでその範囲内でお答えする。まず現状については昨年度分で言うと浜田市は全国で59位という報告を受けている。中国地方では総社市に続いて2番目。全国上位はご存知のように泉佐野市や、今回新制度に適用にならなかったような額を集めている所もあるが、基本的には総務省が示しているルールの中で浜田市も努力していると思っている。

7月末現在で2億数千万円、対前年比を越えているので、そういう面では今やっている戦略……ただ経費も入れて5割以内、返礼品は3割という国の規定があるので、以前のように返礼品を豪華にして集めるのは難しい。地域の魅力と限られた中でより地域特産品PRもさせていただきながら集めていく。基本的には半額

くらいが経費。経費部分が落ちてきたので、逆に市の歳入に入る割合が少し増えているということで。5割までは難しいが、10億円を越えれば5億程度、自由に使えるお金がこれまでと同程度確保できる。戦略としては多くの方に寄附していただけるような努力をしているが、基本的にはいままでの手法を踏襲している。地元産品は非常に魅力がある、お米も年間通じて非常に魅力があると聞いているので、そういう喜んでいただける商品をしっかりPRしながら、ご寄附をいただく努力をしていく考えでいきたい。

道下委員

全国各地がふるさと寄附を集めようと色々な戦略を考えている。邑南町の石橋町長も素晴らしいことをやっている。そういう戦略をどんどん考えてやっていただきたい。

総務部長

スタッフをもっと配置できれば良いのだが、限られた組織でやっている。非常に頑張ってくれている。他市がやっておられることは当然参考になっているし、逆に浜田市は他市にない努力をしている。

1つ心配しているのが、定期的に物を送るやり方。例えば年間通じて毎月お米を送る等すると送料が経費に入り非常に苦戦していると聞いている。なるべく経費を圧縮しながら上手に良い物を皆さんに宣伝して、受け取っていただける努力をする。他自治体の手法も学びながらやっていきたい。

野藤委員長

その他。西田委員。

西田委員

浜田市の財政運営のこれからの見通しだが、話にあったようにふるさと寄附は好調が続いていてプラス面だと思う。もう1点は中国電力火力発電所2号機が令和4年から稼働すると、またそれなりの税収が増える。その2点が明るい見通しだろうが、これは安定的な財政運営とは言えない、特にふるさと寄附は。中電2号機も当初はある程度見込めるが、減価償却をしていく間になくなっていくことも推計が出る。それ以外となると、人口は減少しているし、国の税制改革等制度改革もあるし、プラスはほとんど見込めないと思う。そういった中で、浜田市民の生活負担をできるだけ下げようというやり方、またはサービスを向上させる色々な事業、市民が積極的にされる事業費、要するに浜田市の自由に使えるお金は、あまり心配ないと言われる現状でも、やはりシーリン

グをかけられて市民が活動する補助金はどんどん毎年下げられ、公民館活動等も全体的には下がってくる。ただ、自治区制度廃止においてコミュニティセンター化に向けての若干のプラスはされるが、長い目で見ると全体的に下げられている。浜田市にとってはどうなのか。財政運営を安定させるために住民負担は下げられない、サービスは上げられない、言い方を変えると住民のやる気の芽を少しずつ摘まれているような財政運営にも感じる。自由に使えるお金が削られる、色んな所へ行くと財政のせいにされる。財政課にとっては非常に心外ではないかと思うが、皆さん財政のせいにされる。お金がないから、住民への補助金がカットされて仕方ない、というのが市民の認識。

先ほど、身の丈に合った財政運営と言われたし、特に今の色んな大きいプロジェクト、事業には過疎債のことがよく耳に入る。先ほどの課長の話にも、これまでの色んな事業費の元利償還がどんどん始まって行って、今からも過疎債を使ってまた色んな事業をされると、これから先もずっと元利償還が増えていく。ということは、住民が自由に使えるお金の将来的見通しは、本当を言うかどうか不安に思う。今は大丈夫と言うが、今は大丈夫でも、10年、20年、30年先まで本当に安定的に大丈夫か。そのためにローリングがあるので分からないが。非常に不安なのでご意見を賜りたい。

財政課長

確かにハード事業や普通建設事業、大規模な集中投資をやっているんで、その償還部分は高くなっているというのが現実であろうかと思う。これについては集中投資の期間が終わって、普通建設事業の規模が縮減されることにより、各年度の公債費償還ボリュームは少なくなっていくものと考えている。

ただ一方、浜田市の状況を考えると住民1人あたりの各費目、予算規模等について、類似団体37万8千円に比べて69万1千円29年度決算で使っている。投資的経費についても4万8千円のところ9万円使っている。そういうことを考えると現在の400億円の予算規模が今後10年、20年維持できるとは考えていない。これは縮減していくのが自然な流れだろう。普通建設事業の投資時期によって償還のピークは変わってくると思うが、将来のどこ

ろではそれは下がってくると思う。その中でいわゆる公共施設再配置によって、今ある公共施設の規模・数も当然縮減していく。それによって固定費をいかに抑えていくか。そういう形で、面積がなかなか減らないとか色んな問題があるが、そこを本当に下げていくことで、サービスに使える一般財源がいかに確保できるかというところがある。

あと 1 点、財政課がいつも予算を付けないという話で言えば、現状の何か新しい事業を起こすということであれば、現状の他の事業を何も変えずに新しいことをやれば、今パイが一杯でそれに載せることは当然パイをオーバーすることになる。現状の予算と事業の見直しをやった上で新たなことをやるのだと、それについては人件費を含めて事業費がいくらかかるのか、現状で既にずっとやってきて役割が終わった部分の経費の見直し、それらをやらずにして新規をしようとするれば当然予算が収まらないことがある。その部分を再度市全体で考えて、スクラップする部分はスクラップした中で、ビルドはビルドとしてやっていく。バランスが重要になってくる。

野藤委員長

その他。

(「なし」という声あり)

(3) 2019 年度夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会の実施について

野藤委員長

生涯学習課長。

生涯学習課長

(以下、資料 (3) をもとに説明)

野藤委員長

説明が終わった。委員から質疑があるか。道下委員。

道下委員

午前 6 時からとのことで、駐車場の問題は。

生涯学習課長

駐車場は現在ある東公園内のふれあい広場も含めると、ざっと 500 台近い数が確保できていると思っているが、そのオーバーも見越して現在、浜田第一中学校グラウンドも臨時駐車場として考えている。

開放時間だが、5 時半から既に待機しているので、5 時半から解放したい。

道下委員

朝早くから、例えばうちの地域からなら 30 分くらいかかるのだけど、開府 400 年記念事業として是非参加して場を盛り上げた

い気持ちはあるが、教育委員会として来場者にバッジをあげるとか、そういった特典は何か考えていないのか。

生涯学習課長 参加記念として市は開府 400 年の缶バッジと、東京 2020 のオリンピックバッジを用意している。

野藤委員長 その他。佐々木委員。

生涯学習課長 開府 400 年記念行事の一環とのことだが、これにかかる経費は。経費は当日、ピアノの生演奏があり、それで概ね外会場で 4 万円、体育館も前もって用意するので同じく 4 万円程度かかる。ピアノを 2 台用意するため。また、缶バッジの用意で 3 万円。あとは県立体育館を仮押さえするのでその使用料が予算となっている。

佐々木委員 関係者が来られるが、その宿泊費は別団体が持たれるのか。

生涯学習課長 関係者の人件費については株式会社かんぽ生命、NHK、NPO 法人全国ラジオ体操等、いわゆる主催者側が負担する。

野藤委員長 その他。

野藤委員長 (「なし」という声あり)

野藤委員長 当日、陸上競技場へ参加できる方はご集合いただきたい。

(4) (仮称)浜田歴史資料館検討会の検討状況について

野藤委員長 文化振興課長。

文化振興課長 (以下、資料 (4) をもとに説明)

野藤委員長 説明が終わった。委員から質疑があるか。西川委員。

西川委員 アンケートだが、第 3 回の時も会長が作られたアンケートを皆さんに配布してそれをまとめられたと思うが、今回配られたアンケートはどのような内容なのか。

文化振興課長 今回は建設について賛成か反対か、賛成の場合は条件つきか、条件付きならどのような条件かといった問をした。それと、こちらから敲き台として出している A、B、C 案のうちどれが賛成か、またはそれ以外の案で賛成か、といった意思をいただく内容になっている。

西川委員 今の内容は第 3 回で配られた内容と同じだと思うが、同じものをまた配られるのか。

文化振興課長 前回のアンケートは各委員の方が自分の意見をまとめる参考に

使用していただくためのものだった。それは別にA、B、C案のうちどれが良いかといった内容ではなかった。今回は各項目から選択していただく内容になっている。

西川委員

第3回に配られた用紙を持っているが、確かに委員の皆様が意見を記載される際にご使用くださいとある。内容については多分、賛成・反対・条件付き・A案・B案・C案みたいに書いてあるのだが、同じものを今度は提出していただくということか。

文化振興課長

最終的にどういった案で検討会の中でまとめるか、絞るのに具体的にご意見をうかがいたいということで、皆さんにどの案が良いかを示していただく内容になっている。

西川委員

全体スケジュール、当初は多分4、5回くらいで完結する予定だったと記憶しているが、今の議論で見ると、展示内容、建設費、運営費等色々意見があって、次回が5回目でまとめるには難しい内容だと思う。今後の議論の方向、検討会のスケジュール方向性について教えて欲しい。

文化振興課長

検討会の結果を踏まえて第5回で大方の検討会の案として、それをもとに市として整理、方針策定を決定するものと考えている。
それから議員の皆様との意見交換といったことも考えながら最終的な方針決定をする。

西川委員

この議論が始まった当初、まずは要・不要からと。今回のアンケートでは賛成・反対・条件付きと3つの選択肢がある。それと併せてABCの3案がある。5回目でこれを検討会として求められて出すのか。

教育部長

第3回の時に意向調整をさせてもらった。第4回では、ほとんどの方が条件付きではあるが建設については賛成、現状の資料館を見てやはり必要だろうという大方の流れが出ている。ただ、やる・やらないで言えばやった方が良さだろうという流れはあるが、ではやるとしたらどうするのかを含めて、最後の意見集約のアンケート。ABC、その他もあるかもしれないが、もしやるとすれば2つくらいの候補に絞れるようお願いしている。会長とも話をする中で、1つにまとめた形は難しいだろうと言われており、基本的には条件つきを含めて建設の方向ではあるが、検討会として市へ回答するにあたりまとめをしている。恐らく、二案を併記

する形になろうかと思う。最終判断は市がする。それを第5回で一定の方向がまとまれば、委員長一任になるかもしれないが、何らかの回答をいただく。それを受けて市としてどの案でいくかが決まる流れ。

西川委員

前の委員会でも言ったが、やる・やらないを問われた時に今の郷土資料館の状態を見て、やらないという人はほとんどいないと思う。やる方向だと思う。その後の選択肢ABCは市が最初に提案されたもの、それだけで実際今まで議論の中で展示内容等色々な議論がある中で、ABCのどれかに誘導する形に思えるのだが、この検討会もう少し色々な議論をして、方向性だけでなく具体的な所を話し合う検討会なら良かったのだが、それだけ決めてもう5回で終わるような。意見を聞いてあとは市が判断するという検討会の位置づけなのだろうか。

教育部長

3案を出したのは2年前の御便殿の案に対して、費用が高すぎる、あるいは市の既存施設の活用はないかということから3案出している。その中でも他の案は無いかという意見もあったので、廃校になった学校を使った場合、あるいは全然違う場所にやった場合も、基本的にはA案。施設を複合化しない限りは一定のお金がかかると説明している。誘導ではなくこれはあくまでも前回の指摘に対して、対応すればこういう案ということ。ただ、言われるように案として示しているので、委員からすればこの中から選ばうというのがあるかもしれないが、そこは誘導ではなく。仮にその他が出されればそれが今回の案として出る可能性もある。

仮にやるとなれば具体的に詳細な展示方法や内容についてはまた別途、違う検討会を。これは昨年9月議会でも報告している流れだから。今回の検討会としてはやる・やらないと、一定の案を出していただく位置づけにしている。

野藤委員長

その他。西田委員。

西田委員

今のやりとりを聞いていた。検討委員会の方々のご意見と執行部の思いのやりとりはある程度理解した。2年前に取り下げられた時のことを思い起こすと、事業費とランニングコストと場所の問題があったので、議会の反対もあって取り下げられた。その当時も検討委員会で色々検討された結果、上程されて、でも取り下

げられた。私は再度戻って、郷土資料館があつた状態だったら誰でも、文化関係の方々の陳情・要望があつたから、当然あつた郷土資料館をベース、ランニングコスト1千万円で運営されていたので、そこをランニングコストのベースに、郷土資料館にプラスアルファどうしたらいいかという考えからスタートされるものと私は思っていたのだが、出てきたのは基本的に変わってないと感じる。あくまでも建設理由が子供達のふるさと教育。子供達をすごくダシに使われるが、子供達の歴史教育だったら建物ではなくもっとソフトのものをなぜ考えられないのか。場所がないなら例えば公共施設の中でも、学校も子供達がこれから減ると空き教室が出てきたり、子供達が普段の学校生活の中で身近に歴史のお宝が気軽に見れたり、色々な学校も含めてもっと地元で困ったお宝を子供に見て欲しいなら、学校にも分散展示しても良いし、もっと色々なやり方があると思う。

それなのにあくまでも、事業費はあまり変わらないものが出てくる。胸がつかえてつかえて物を一切言いたくなくなってしまうのだが、でもやっぱり言わないといけない。

後ろに2つの美術館の概要が出ているが、市民の皆さんが一番強い懸念しておられるのが維持管理のこと。ランニングコストがどうのこうの言われても、5千万円、6千万円かかるものを今から新たに作る、先ほどの財政課長のお話では、1つビルドするのに2、3はスクラップしないと財政的にも厳しいのは当たり前。それを考えると、財政のことは全然考えずにいかにもどうやって建てるかだけを考えて進めておられる。もう少し財政サイドと地に足を付けて話をつけて根を伸ばした考え方でやって欲しい。

検討委員会が賛成されたら、もうそれでされるのか。すると結局2年半前の市議会の議決と同じ状況をまた繰り返すことになる。それが残念でならない。もう少し足元から見つめ直して、今の郷土資料館のあり方から踏まえて考えていただきたい。いかがか。

教育部長

学校の空き教室を含めた展示ということで。これは先般の議会でも各支所のロビーを使ってはどうかという意見をいただいている。やはり色々なご意見を聞く中で、各自治区の委員さんは、そこにあることで意味を成すものがある、ただ集めれば良いもの

ではない、という話も出た。そういう意味では地域性のあるものへの一定の配慮は必要だと思っている。空き教室のご提案については、実際に使わない部屋があればそれも少し検討させていただく。

建設ありきではないかという意見をいただいたが、ランニングコストも含めてそこはしっかり検討した案を出している。複合化することによるコストダウンは必要だろう。貴重なご意見をいただいた。前回の反省を踏まえているのでご理解いただきたい。

野藤委員長
佐々木委員

佐々木委員。

先に財政課の話があったため余計にインパクトが強い。年間5千万円の維持管理費というのは、不安要素、不確定要素、あるいは国の制度改正によるもの、色んなことを想定しながらこの建物は作らないと。単なるサービスなら止めますといっても市民の皆さんから了解が求められるだろうが、建物はそうはいかない。不要になったから壊す、では駄目。作った以上は維持管理をしていかないといけない。それが年間5千万円、10年で5億円、20年で10億円。これだけの資金があれば、住民サービスの充実がどれだけ測れるか。この検討委員会22名の方々、委員長から意見整理のためにということではあったが、それぞれ賛成・反対でその理由や、詳しく自分の意見を整理するための提案をされて、書かれた内容が今回最初の枠に書いてあるが、それにしても重要な案件を審議するのにまだまだ意見が出たのでは。22名のうち賛成が何人、反対が何人、その理由がどう、というのがこれでは攫みにくいのだが。いかがか。

文化振興課長

大体同じようなご意見があった。ほとんどこれに集約できるので、このように表現させていただいた。

佐々木委員

大体網羅してあるという意見だったが、傍聴もしてないし想定で物は言えない。重要な審議を、半年程度という短期間やる。本来だともう少し年数をかけて色んな調査や財政状況の変化等も加味しながら検討すべきだと思うが、その猶予もないようで。先月の7月にはある程度方向性を出すということだったが、今は少し遅れ気味というところか。もう少し慎重になって検討会の結論を出さないと、それを背景にして市の結論ということにもなって

くと思うので。猶予を持たせる考えはないのか。

教育部長

一応ある程度の方向性も出てきたと認識している。4 回目の時に欠席の方もおられて、中には欠席するからと資料をいただいた方もいるが、基本的に明確な反対はほぼなかった。最初の段階では数名の方が反対されていたが、説明なり協議する中で条件つきで必要性を認めるという流れになっている。短期間というご指摘だが現場も含めてしっかり協議してもらっている。第5回目で基本的には回答がいただけて、それを受けて市で方針なり検討会を再度設置して詳細をつめようと考えている。

佐々木委員

意見のやり取りのどこかであったが、実際どれくらいの展示をするのかという質問で、これは今後専門家の検討会で諮ると。展示量を決めてその枠に沿ったものを作る考えか。

教育部長

展示面積も含めてだが、歴史関係の方からすれば恐らく広ければ広いほど良いと思われるが、現在は展示スペースは 420 平米程度ということで、提案させていただいた予算は全て同一規模ということにさせてもらっている。既存の資料館が約 200 だから、約倍程度の面積を考えている。資料はあくまでイメージだが、時代に沿った展示をしたり、当然企画展も考えられるし、その辺は仮に 400 と決定すれば、その中で展示できる範囲をしようと考えている。今回は美術館の資料も付けているが、これは現場を見られた時に多目的ホールを使えなくなるのかということもあったので、あえて資料を付けた。場合によっては企画展でそういった所も使うので、仮に複合化の案ができれば 420 プラスそういった部分も展示に使えることがある。それは今後の検討において、年間スケジュールや企画展の中で検討したい。

佐々木委員

これまで一般質問等で何度か聞いたが、郷土資料館との兼ね合いについて。この歴史資料館ができれば郷土資料館を包含すると思うが、郷土資料館が老朽化してこれを建て替えるのだという意味合いの資料館なら、それほど反対や疑問の声も少ないのではと思うが、この前の一般質問では教育長も郷土資料館もこの歴史資料館も、それほど大差ないというお答えだったと思う。その割に郷土資料館を包含するといった考えは出てきてないようだが。

教育長

郷土資料館の建て替えについて、答弁の中でお話ししたのは郷土

資料館と歴史資料館というものは、機能的には歴史資料を展示して皆さん方に紹介する施設なので大差ないといった話をしたが、今回目指しているのは浜田の郷土資料館の建て替えであれば、今の郷土資料館は浜田自治区の郷土資料館という位置づけなので、そうではなく浜田市全体の歴史的資料を展示するような場所を建てたいという思いなので、そういった意味では単に現在の黒川にある郷土資料館の建て替えではないといったことをお話させていただいた。その辺ご認識いただきたい。

それから年間の維持管理費は確かに大きな問題で、それが理由で前回は取り下げた。今回提示している3案で言うと、純然たる運営費の増額分ということについてはそれぞれ5千万円から1千万円の増額でできるといったような案になっている。5千万円にするのか1千万円にするのかは検討会の皆さん方のご判断をこれから仰ぐことになるだろう。

5回目で意見がまとまるか、もっと深めてというご意見をいただいた。今の検討会の様子を見ると同じような意見が繰り返し言われている現状がある。今は論点を整理してやっているのですが、それについては5回である程度の方向性はまとめられる気がしているが、これは委員長の判断なので、委員長がこれでまとめると判断されれば5回で終わるだろうし、もう少し意見を深めるべきといった思いを持たれたら更に回を重ねることもあろう。

いずれにしても検討会からいただいた意見を先ずは議会の皆さんにそのままお伝えする。議員のご意見もうかがいながら市としての方針を出して、その後は全議員との意見交換会も開催していきたい。この辺の作業はできれば12月議会までに行きたい。

佐々木委員

やはりこれをなぜ作るのか。大きくは3つの理由があって、その中でも特にふるさと教育や、貴重なものを保存、展示、継承する意味合いだと思う。特に子供達に浜田の良さ、歴史を知ってもらうのは大きな意義があろうし、将来浜田に住みたい、浜田に何かしたいという子供達も沢山出てくる効果もあろうが、ただそれが資料館でないとできないかとなると、それもどうか。学校単位でこの辺の良さを教育していただければ、より細かくより深くできる可能性もあるし。整備の目的が私に伝わってこない。説

教育部長 得方のある説明に聞こえない。いかがか。
それはしっかり伝えていくしかないと思っている。またしっかり市の目的を説明させていただく。

野藤委員長 ここで暫時休憩する。再開を 35 分からとする。

[11 時 27 分 休憩]

[11 時 35 分 再開]

野藤委員長 会議を再開する。先ほどの件については 9 月議会もあるので、一般質問等で十二分にやっていただきたい。

(5) 第 71 回島根県消防大会及び第 63 回島根県消防操法大会について

野藤委員長 警防課長。

警防課長 (以下、資料 (5) をもとに説明)

野藤委員長 説明が終わった。委員から質疑があるか。沖田委員。

沖田委員 消防操法大会について質問する。今回は雲南市・益田市が優勝・準優勝だが、浜田方面隊と東部の消防隊のタイム等々はかなり力の開きがあったように思う。その辺はどのように考えておられるか。

警防課長 タイム的な開き、得点も併せて。なかなか一概に得点だけで判断するのも難しい。雲南は消防団自体が通年で取り組んでいたり、団員の身体的能力、年齢も当然タイム差として表れる。タイムが遅くても操法自体の得点を上げることは可能だと思う。そこは一発勝負なのでなかなか難しい。

沖田委員 今回、上府分団が 6 位で、これでも健闘した。しかし雲南市は特にレベルが高い。その要因の 1 つに、浜田市は消防大会の練習が 4 月くらいから人工芝の練習場を設置して行うのだが、今回は多分美川だった。数年前は浜田のこくぶ学園のグラウンドを借りている。いずれにせよ浜田の西と東にかなり分散していて、そこに通うだけで往復 1 時間くらいかかる。練習時間もかなり少なくなるし、練習場の問題が浜田消防のネックになっていると昔から思っている。浜田市内の真ん中あたりに、ある程度通年でも使える場所があればと思うがいかがか。

警防課長 練習会場については今回は特にご不便をかけたと思う。ここ最

近は東のチームが出たらこくぶ学園のグラウンドを貸していただいている。今年も使用可能ではあったのだが、地元開催ということで出場チームが多い。小型と自動車も両方浜田隊から出たこともあって、こくぶ学園で2コースは難しかった。美川の広場にお願ひしたら快諾いただいたし、2コースが十分とれる広さもあつたので。それと夜間照明やコンプレッサー等のレンタル品の関係もあり、2か所に分けるとその費用が倍かかってくることも考慮させていただいて、今年は美川でやらせていただいた実情がある。

一応来年からは浜田隊からは小型ポンプ操法のみのお出場に恐らくなるので、次回の地元開催の時はどうなっているか分からないが、その時々で西東と訓練場は整備できようかと思っている。

沖田委員

ということは、来年は恐らく小型ポンプは下府分団が出るのではと思うが、練習会場はこくぶ学園でよろしいか。

警防課長

まだ来年のお願ひはしてないが、うちではそのように考えている。

野藤委員長

その他。

(「なし」という声あり)

(6) その他

(配布物)

○令和元年度運動会及び学習発表会等日程

野藤委員長

配布物が1件あるのでご確認をお願いする。他に執行部から何かあれば。

(「ありません」という声あり)

野藤委員長

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

ではここで、全員協議会へ提出して説明するものを決定したい。まず執行部の意向を確認したい。総務課長。

総務課長

(4)についてのみ全員協議会へ提出させていただきたい。

野藤委員長

執行部から意向が示されたが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのように決定した。執行部は退席いただいて結構だ。

《 執行部退席 》

2 その他

野藤委員長

委員からその他、何かあるか。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

事務局から。どうぞ。

篠原次長

お知らせする。5月13日から17日に開催された議会報告会で提出された各テーマに、意見の一覧の提供について、広報広聴委員長の小川委員長から総務文教委員長あてにいただいているので、参考にご覧いただき、今後所管事務調査や政策討論会テーマ等への参考にしていただければと思う。参考配布である。

先日、政策討論会があった。総務文教委員会提出のテーマについては議長の判断でまた総務文教の方でもう少し深堀の検討をして欲しいということだったので、今後また検討していかないとはいけませんが、現在この前の討論会の会議録も作成中のため、また皆さまになるべく早くお示しして、委員会ごとにでも検討していただければと思う。

野藤委員長

では次回委員会、もしくは資料が整い次第、またご案内するので委員の皆よろしく。いまの件について何かあれば。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

では、配布された資料にはお目を通しておいていただきたい。以上で総務文教委員会を終了する。

(閉 議 11時50分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定より、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 野藤 薫 ⑩